

在宅高齢者実態調査

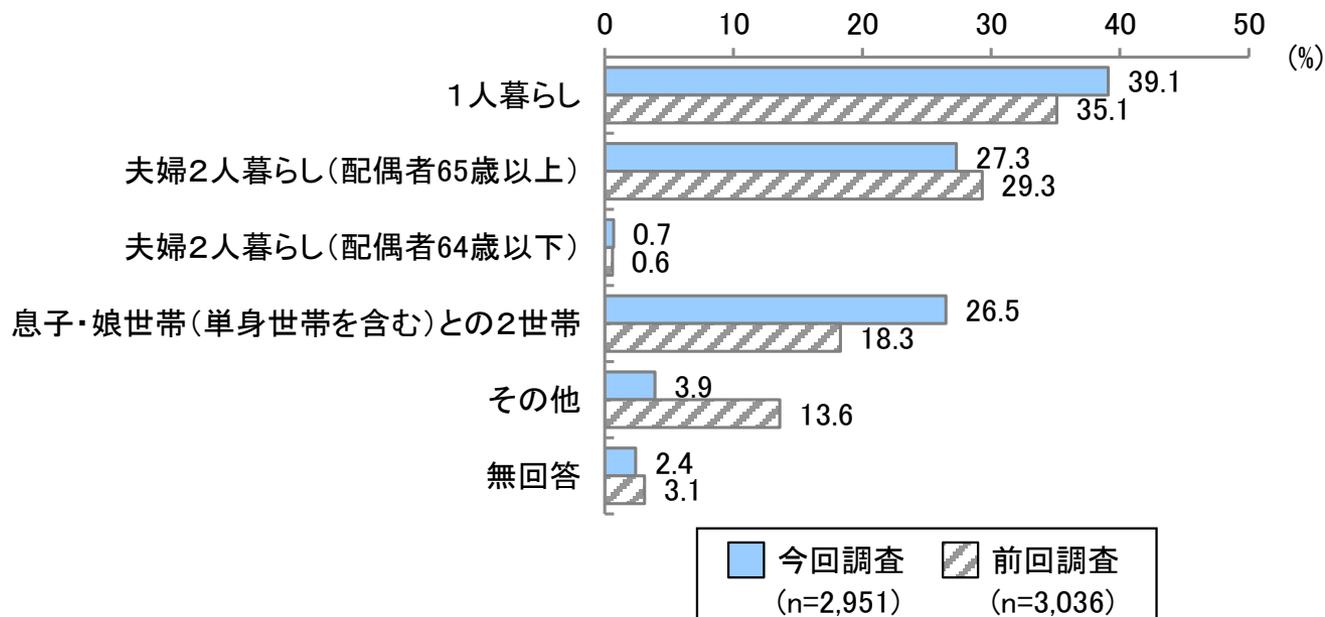
調査結果

2022年度

神戸市

家族構成

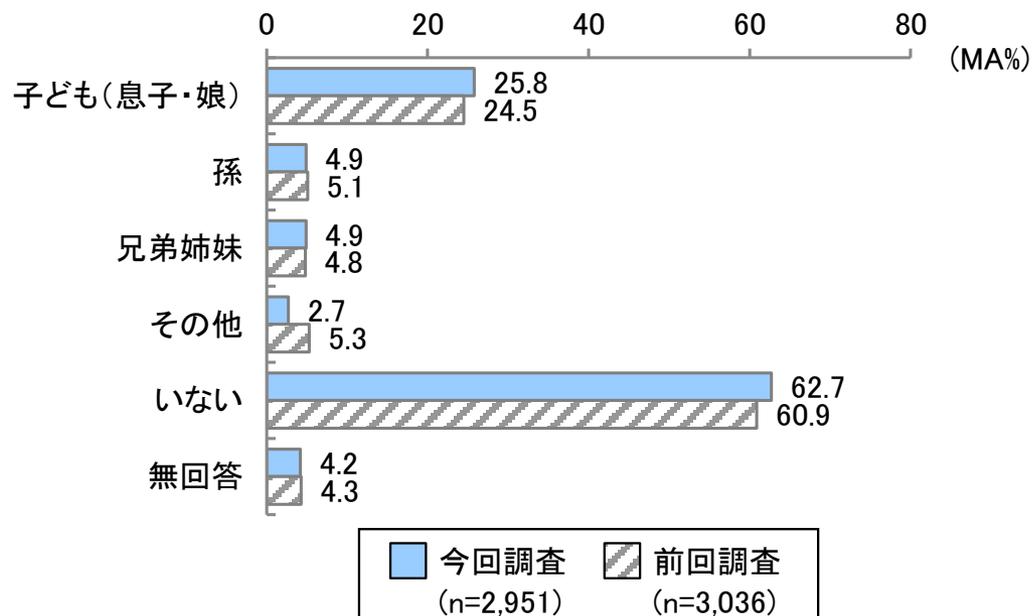
家族構成は、「1人暮らし」が39.1%と最も多く、次いで「夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)」が27.3%、「息子・娘世帯(単身世帯を含む)との2世帯」が26.5%となっている。



※前回調査の選択肢は「息子・娘世帯との2世帯」。

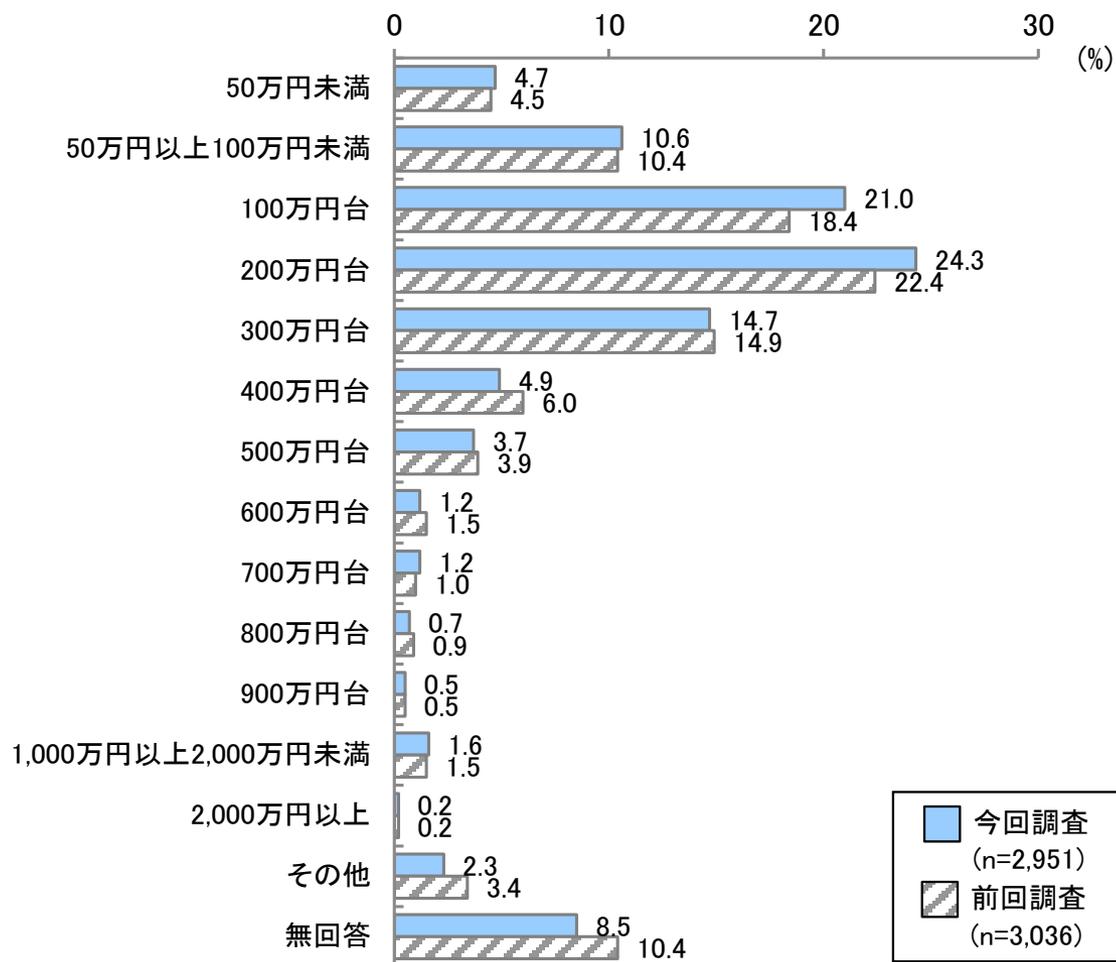
近くに住む親族の有無

歩いて15分以内くらいに住む親族の有無については、「いない」は62.7%となっている。いる人では「子ども(息子・娘)」が25.8%と最も多い。



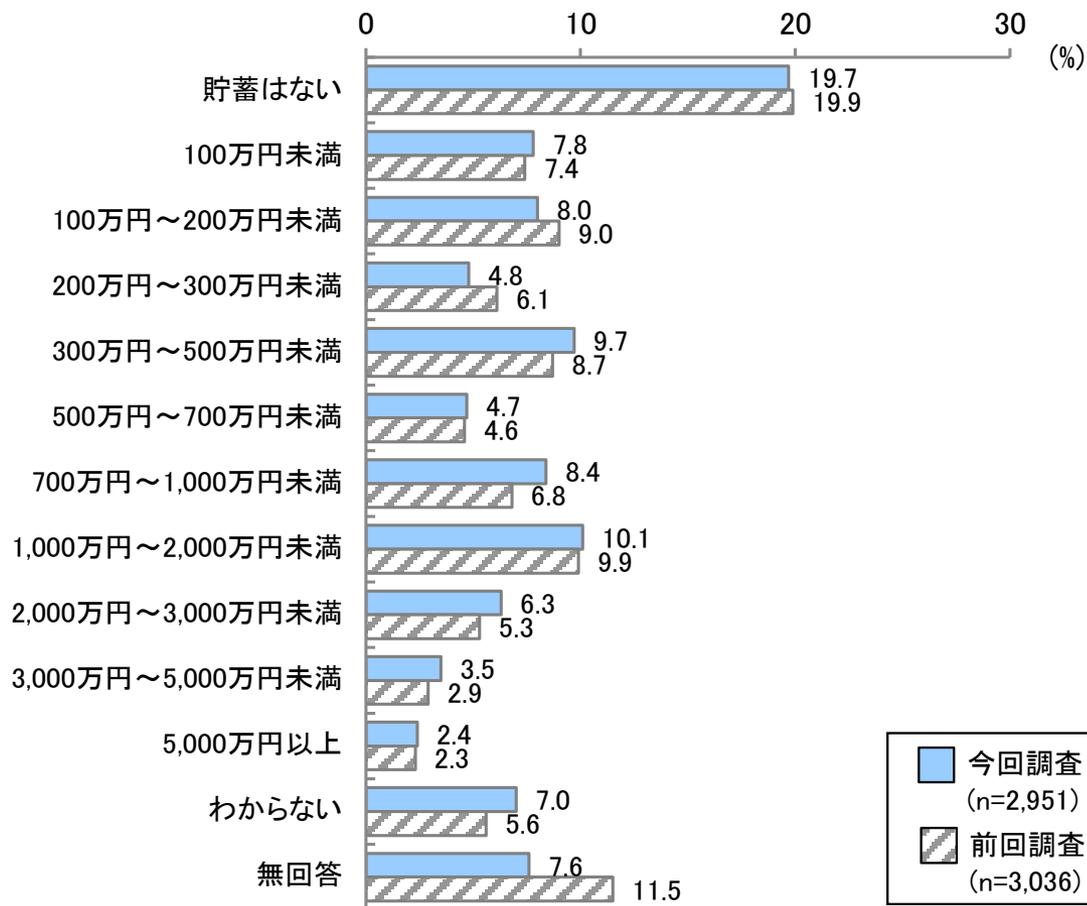
世帯全員の年間収入の合計額

世帯全員の年間収入の合計額は、「200万円台」が24.3%と最も多く、次いで「100万円台」が21.0%、「300万円台」が14.7%となっている。



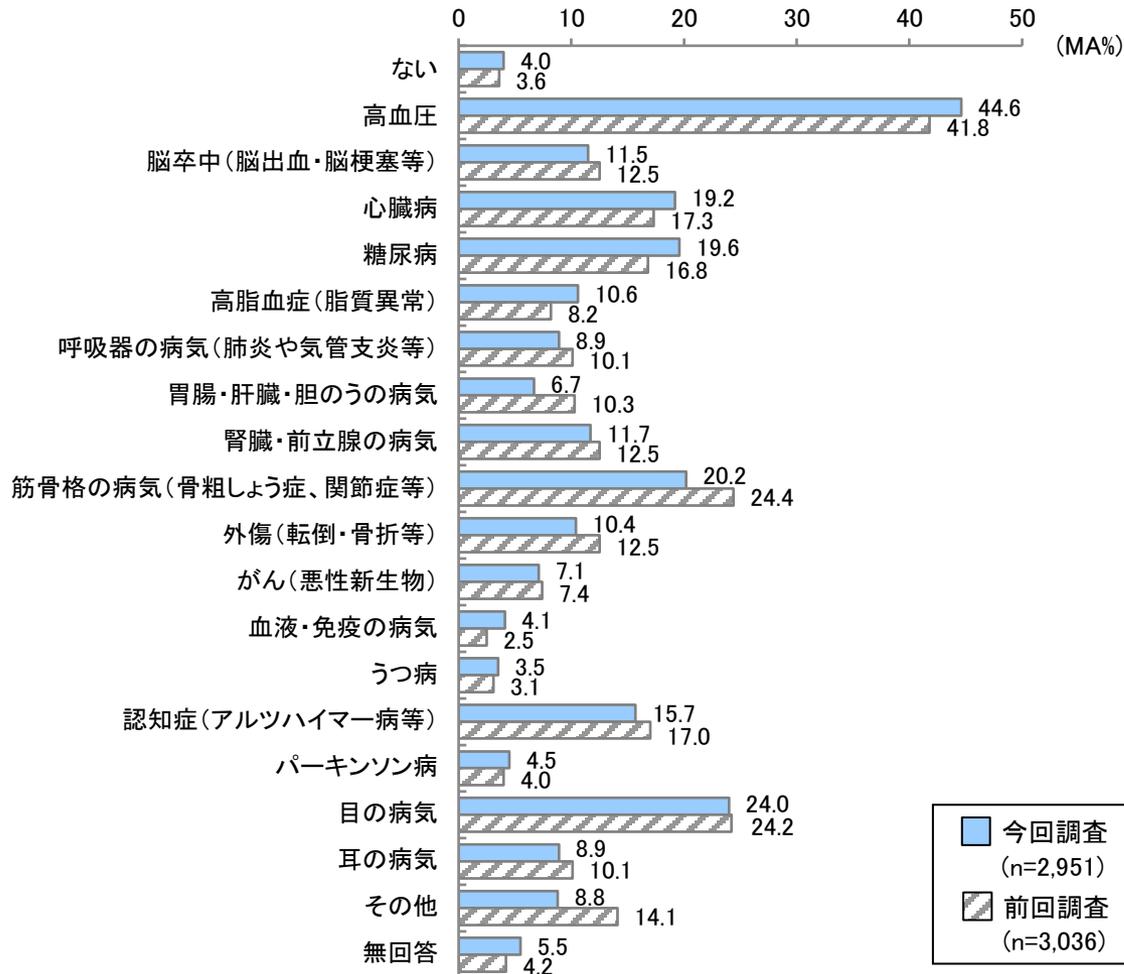
貯蓄総額

貯蓄総額は、「1,000万円～2,000万円未満」が10.1%で最も多く、次いで「300万円～500万円未満」が9.7%、「700万円～1,000万円未満」が8.4%となっている。「貯蓄はない」は19.7%となっている。



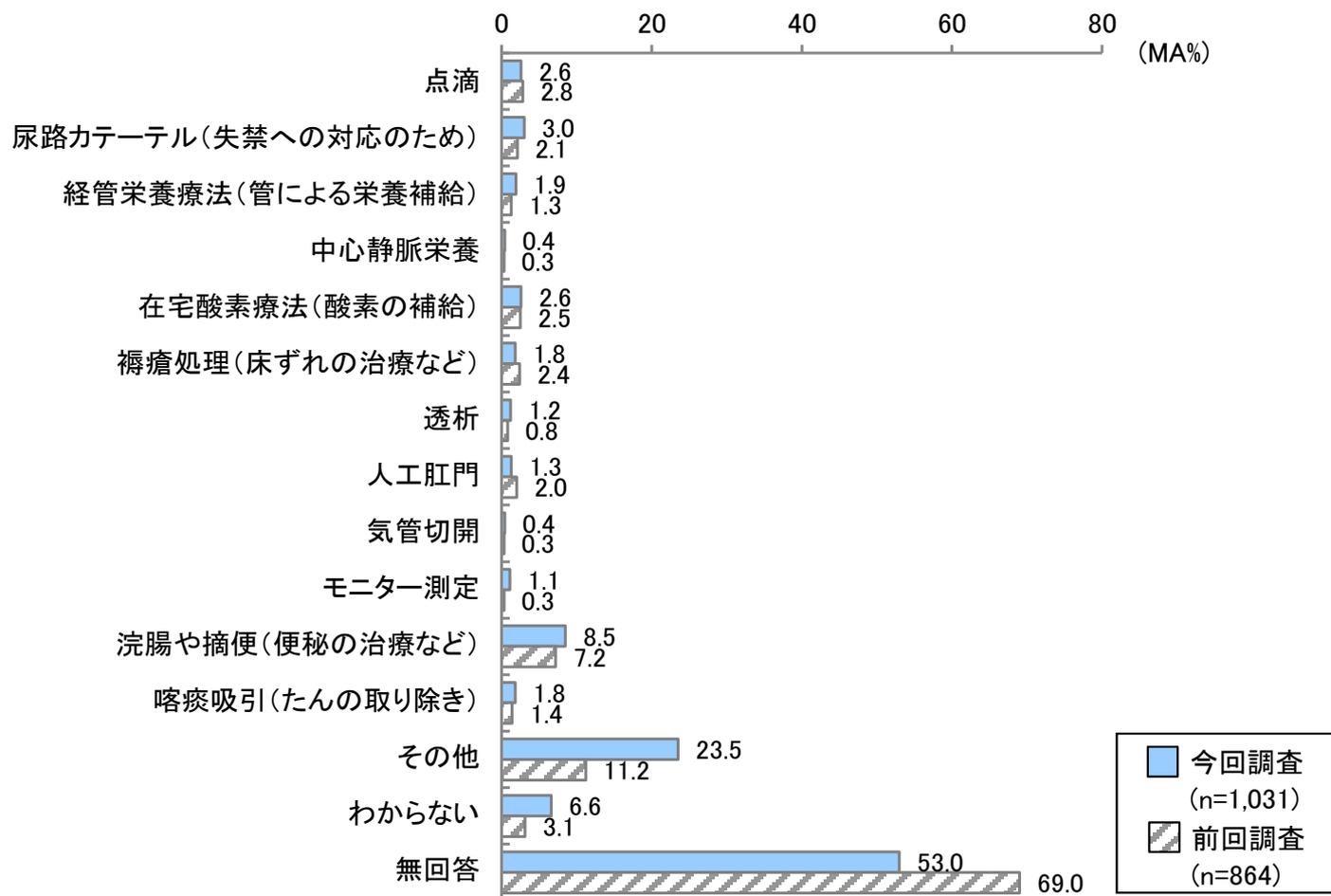
現在治療中または後遺症のある病気

現在治療中または後遺症のある病気は、「高血圧」が44.6%と最も多く、次いで「目の病気」が24.0%、「筋骨格の病気(骨粗しょう症、関節症等)」が20.2%、「糖尿病」が19.6%となっている。



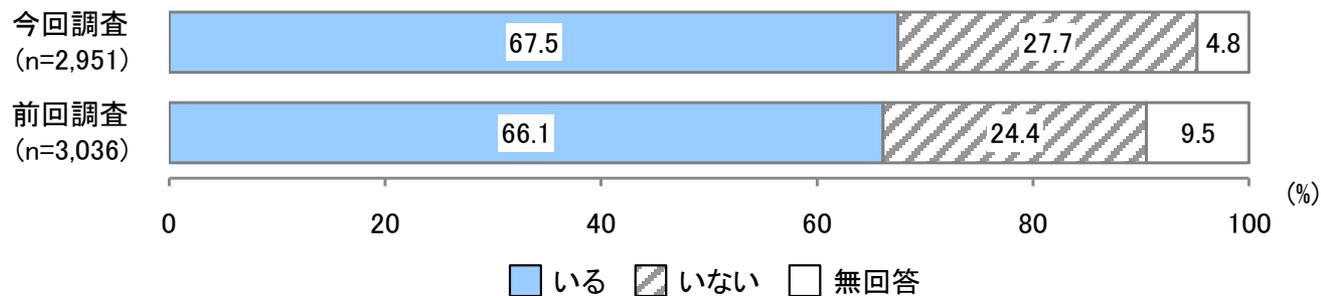
自宅で受けている医療の内容

自宅で受けている医療の内容は、「浣腸や摘便(便秘の治療など)」が85%と最も多く、次いで「尿路カテーテル(失禁への対応のため)」が30%、「点滴」、「在宅酸素療法(酸素の補給)」がそれぞれ26%となっている。



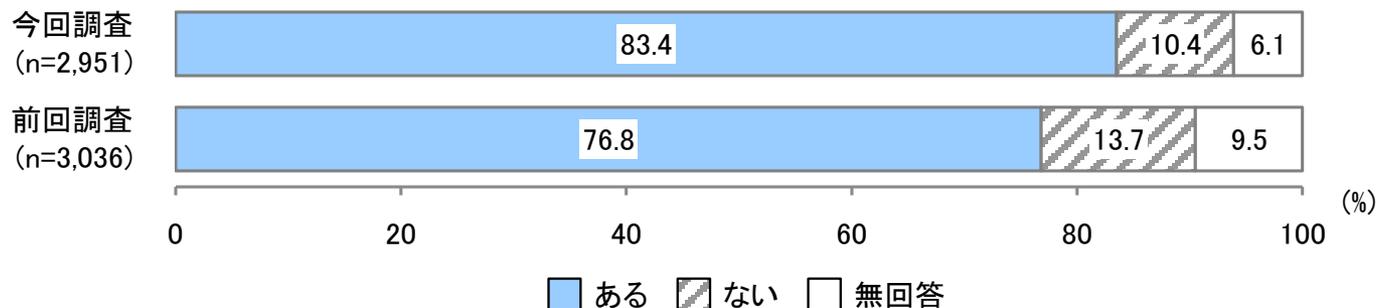
かかりつけ歯科医師の有無

かかりつけ歯科医師は、「いる」が67.5%、「いない」が27.7%となっている。



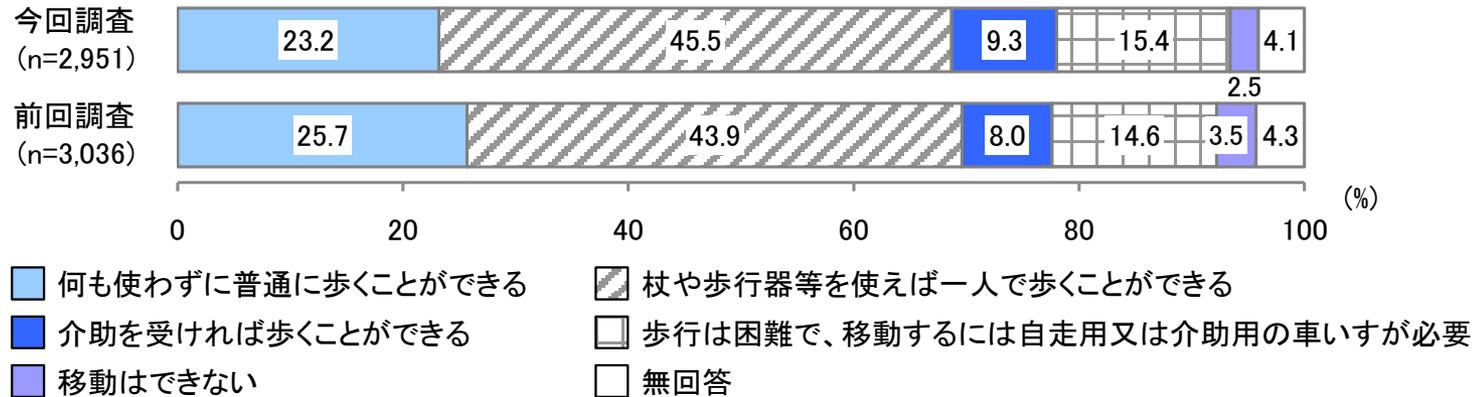
かかりつけ薬局の有無

かかりつけ薬局があるかは、「ある」が83.4%、「ない」が10.4%となっている。
前回調査と比較すると、「ある」が6.6ポイント高くなっている。



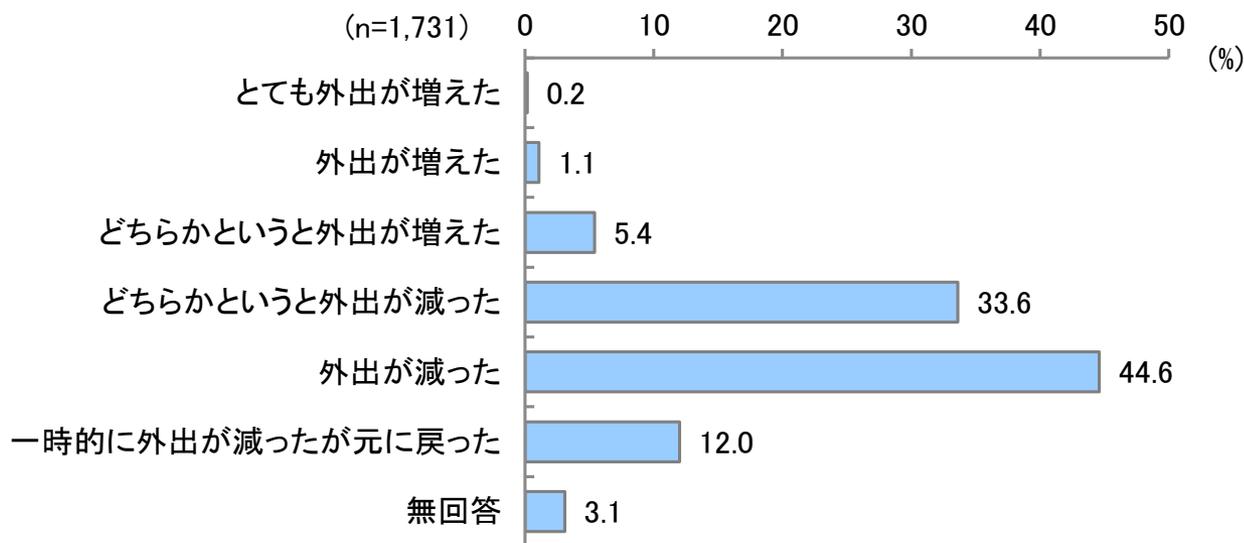
現在の身体状況

現在の身体状況は、「杖や歩行器等を使えば一人で歩くことができる」が45.5%と最も多く、次いで「何も使わずに普通に歩くことができる」が23.2%、「歩行は困難で、移動するには自走用又は介助用の車いすが必要」が15.4%となっている。



新型コロナの流行後の外出頻度

介護保険のサービス利用時以外で外出すると回答した方に、新型コロナの流行後の外出頻度をたずねたところ、「外出が減った」が44.6%と最も多く、次いで「どちらかというと外出が減った」が33.6%、「一時的に外出が減ったが元に戻った」が12.0%となっている。



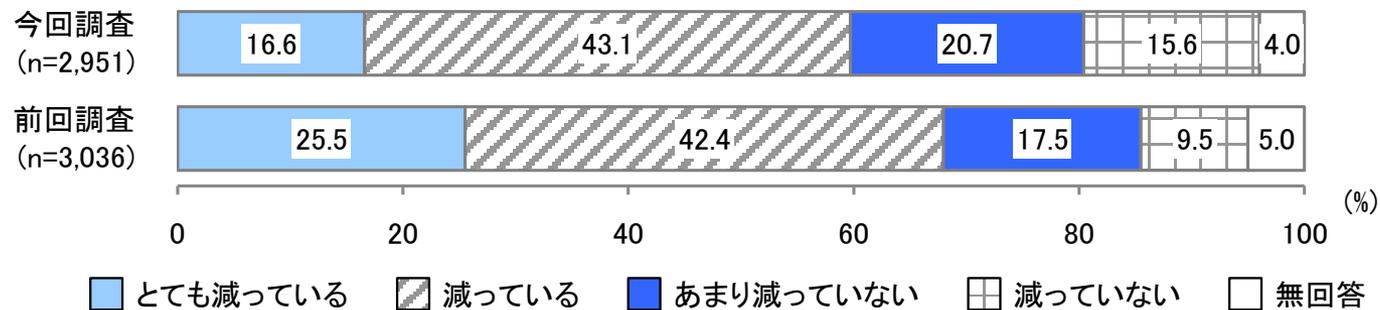
新型コロナに対する不安感

新型コロナに対して不安を感じるかは、「不安を感じる」が30.1%と最も多く、次いで「どちらかという不安を感じる」が27.9%、「とても不安を感じる」が20.5%で、8割近くの人が不安を感じている。



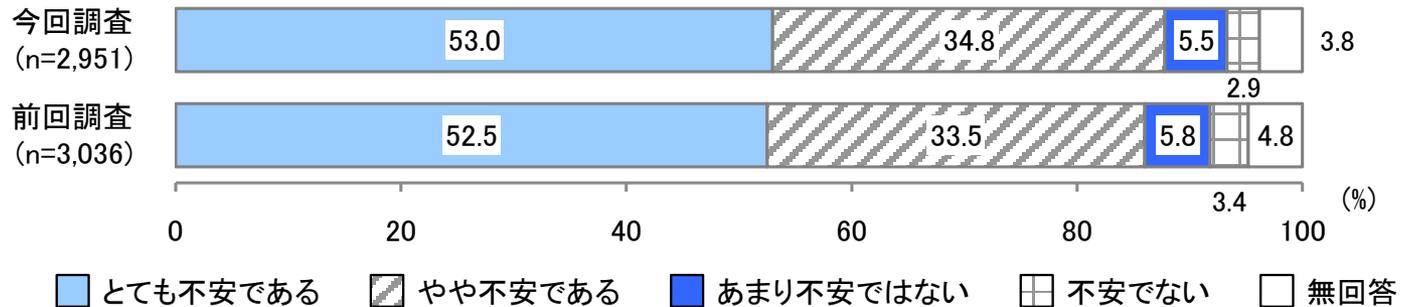
昨年と比べて外出回数が減っているか

昨年と比べて外出回数が減っているかは、『減っている』（「減っている」+「あまり減っていない」）が59.7%、『減っていない』（「とても減っている」+「減っていない」）が36.3%となっている。
前回調査と比較すると、『減っていない』が9.3ポイント高くなっている。



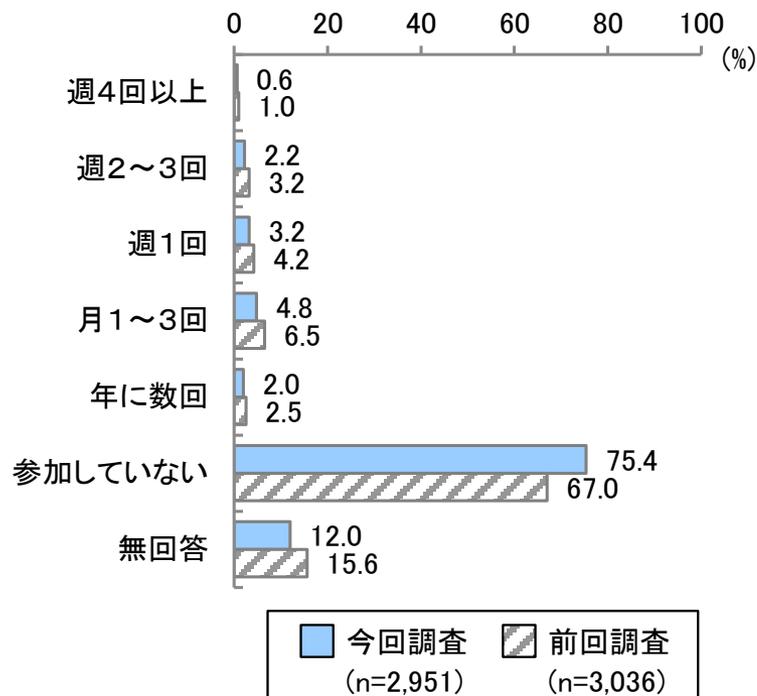
転倒に対する不安の大きさ

転倒に対する不安は、「とても不安である」が53.0%、「やや不安である」が34.8%と、『不安である』人が87.8%となっている。



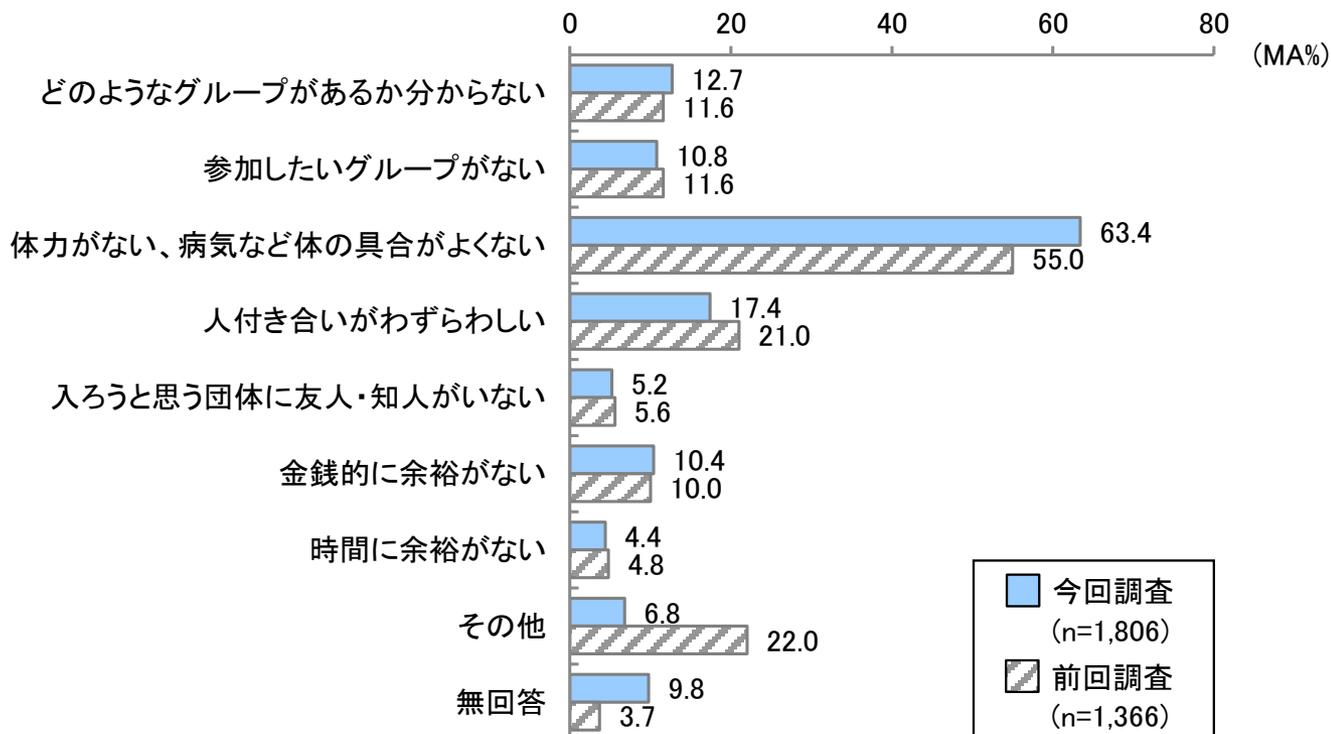
趣味関係のグループの参加頻度

趣味関係のグループは、「参加していない」が75.4%で最も多く、参加している割合（「週4回以上」～「年に数回」）は12.8%となっている。
前回調査と比較すると、「参加していない」が8.4ポイント高くなっている。



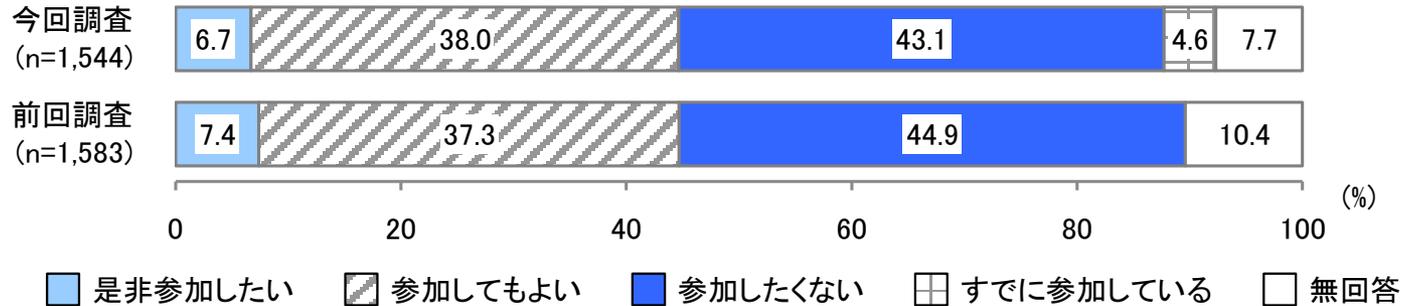
いずれの会・グループにも参加していない理由

いずれの会・グループにも参加していないと回答した方にその理由をたずねたところ、「体力がない、病気など体の具合がよくない」が63.4%と最も多く、次いで「人付き合いがわずらわしい」が17.4%、「どのようなグループがあるか分からない」が12.7%となっている。前回調査と比較すると、「体力がない、病気など体の具合がよくない」が8.4ポイント高くなっている。



地域のグループ活動の参加者としての参加意向

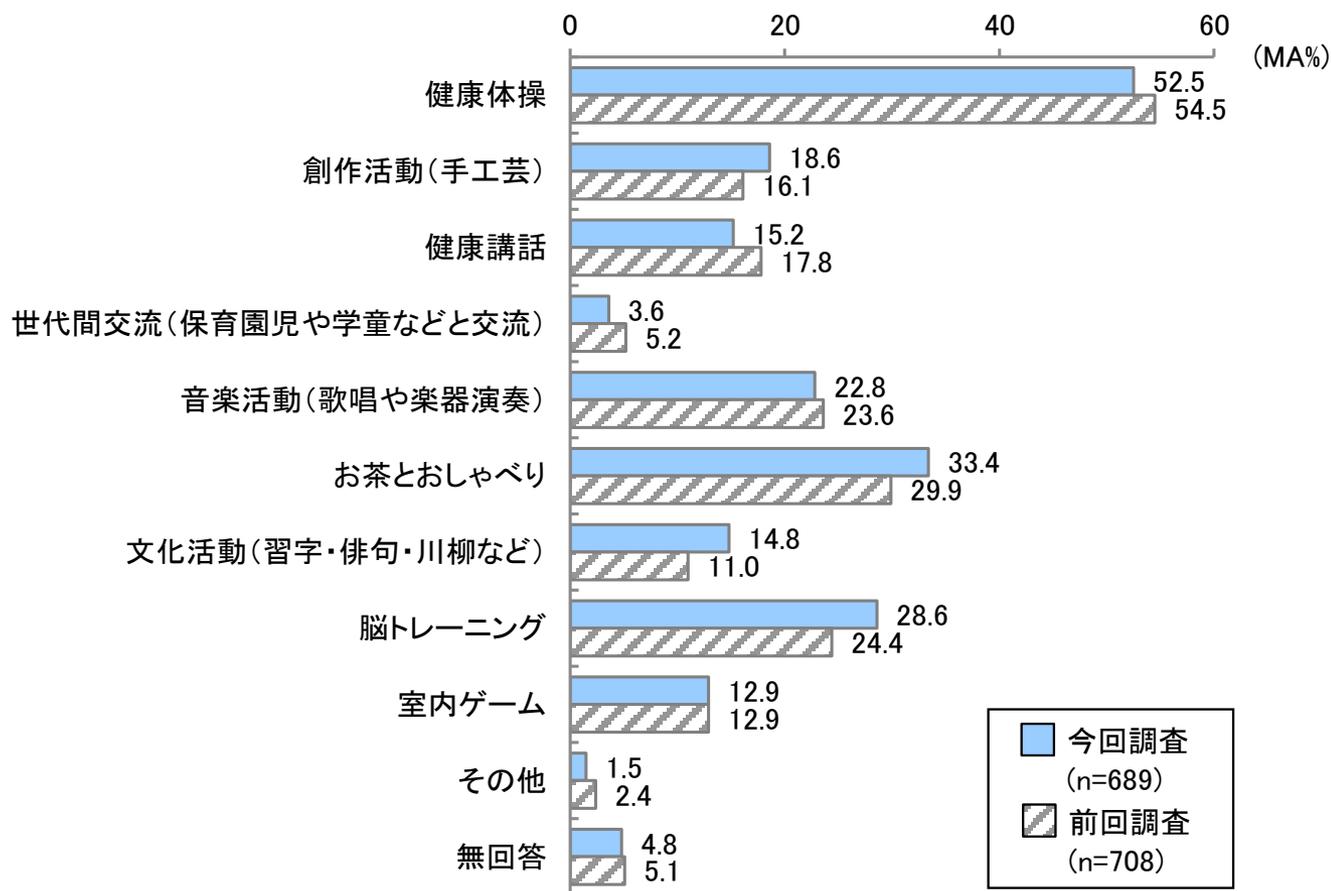
地域のグループ活動に参加者として参加したいと思うかは、「参加したくない」が43.1%と最も多く、次いで「参加してもよい」が38.0%、「是非参加したい」が6.7%、「すでに参加している」が4.6%となっている。



※「すでに参加している」は今回調査のみの選択肢。

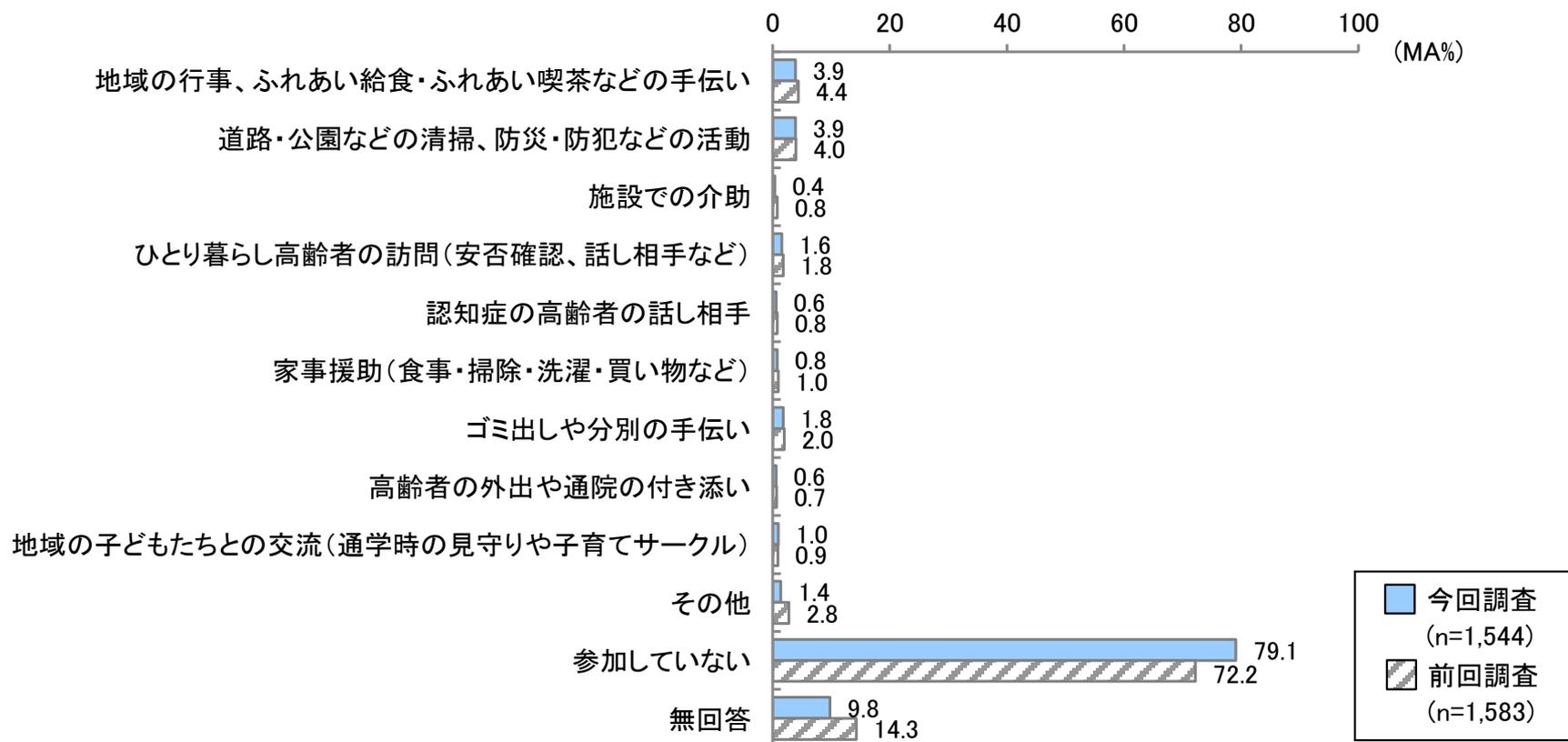
地域のグループ活動に参加意向のある活動内容

地域のグループ活動の参加者として「是非参加したい」「参加してもよい」と回答した方に参加したいと思う活動についてたずねたところ、「健康体操」が52.5%と最も多く、次いで「お茶とおしゃべり」が33.4%、「脳トレーニング」が28.6%とっている。



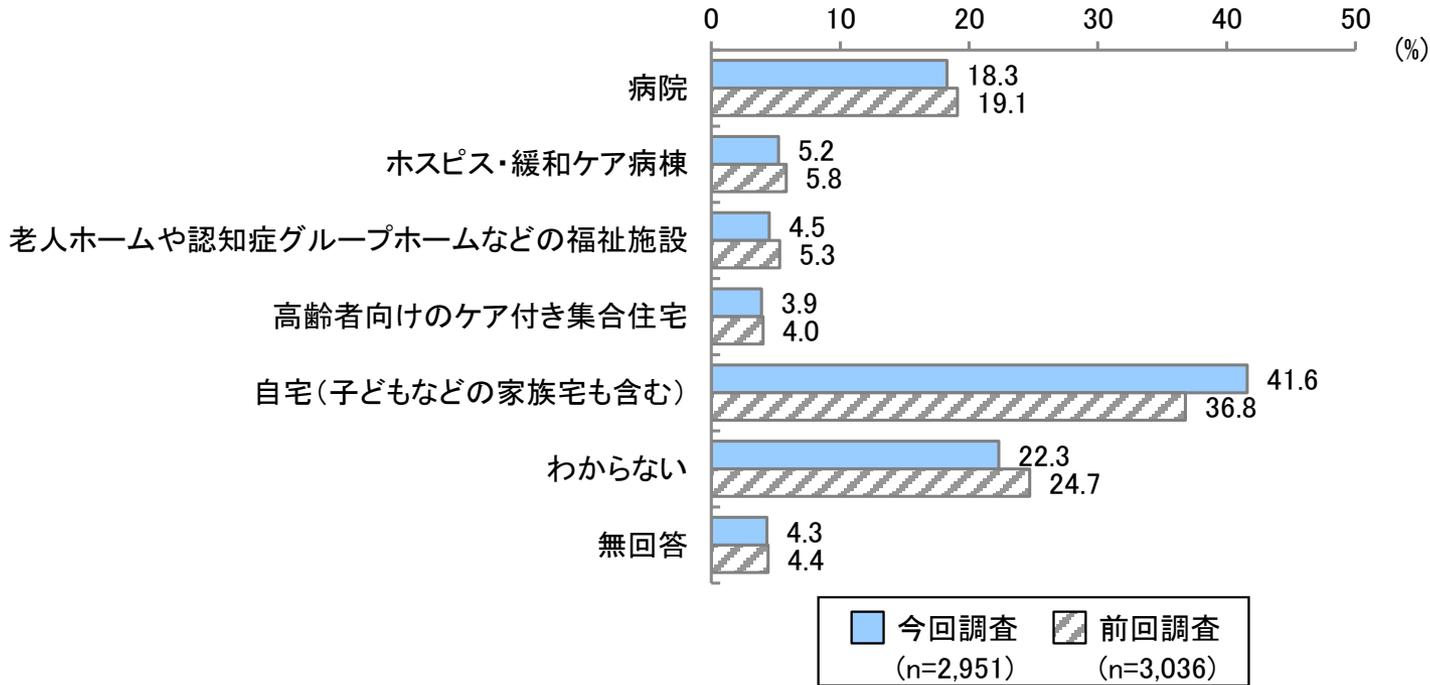
地域のボランティア活動への参加状況

地域のボランティア活動への参加状況は、参加している人では「地域の行事、ふれあい給食・ふれあい喫茶などの手伝い」と「道路・公園などの清掃、防災・防犯などの活動」がそれぞれ3.9%と最も多くなっている。「参加していない」は79.1%となっている。



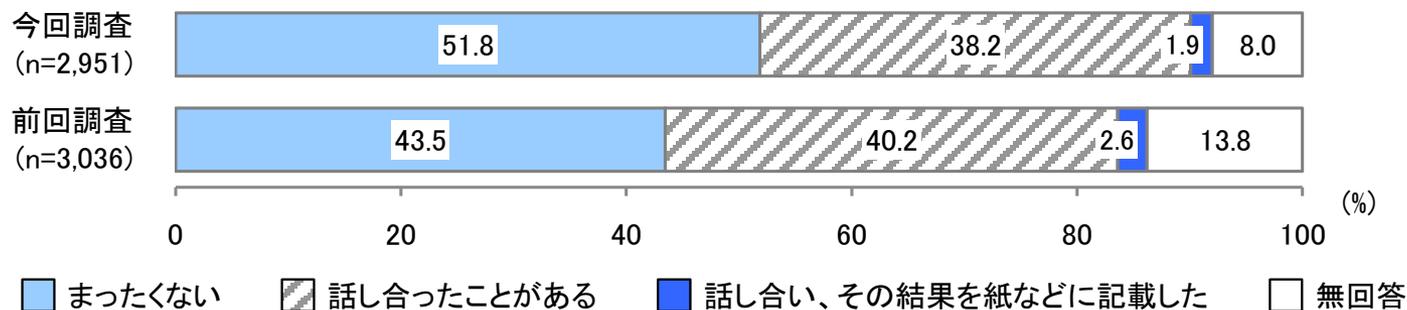
自分が希望する終の住処

自分が希望する終の住処は、「自宅(子どもなどの家族宅も含む)」が41.6%と最も多く、次いで「病院」が18.3%、「ホスピス・緩和ケア病棟」が5.2%となっている。



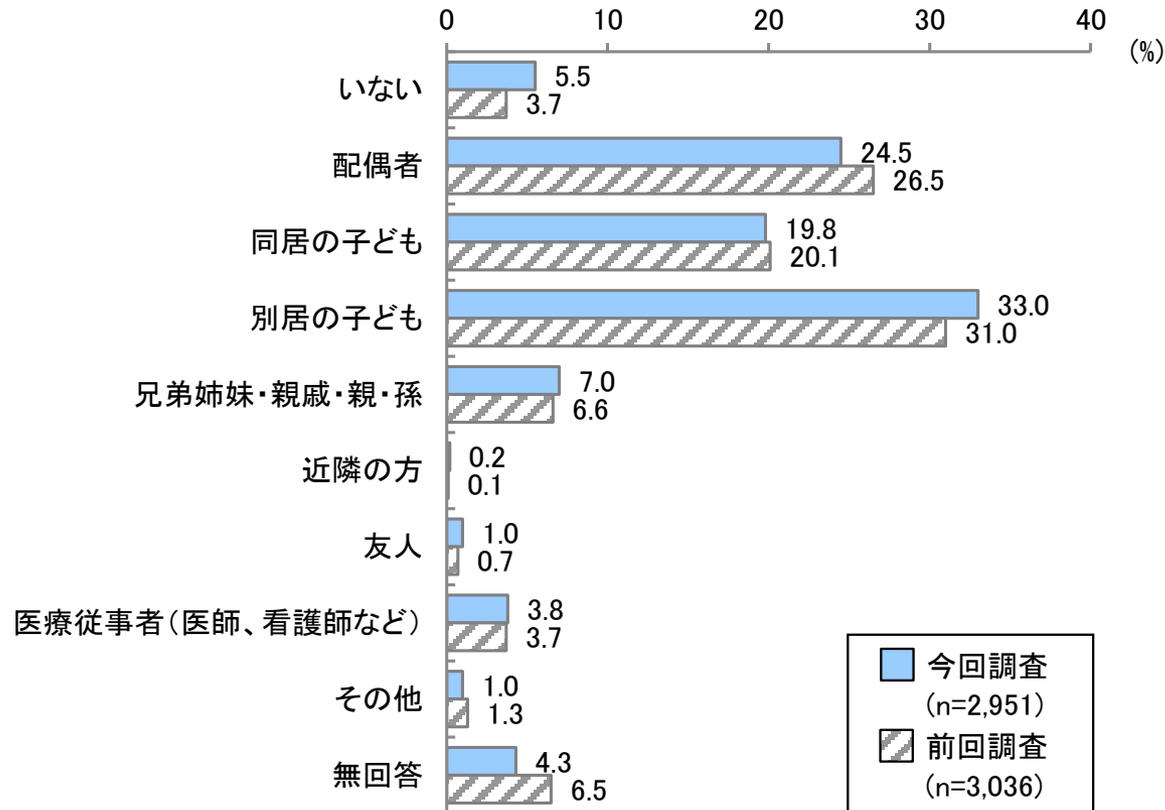
終の住処についての話し合い状況

終の住処について誰かと話し合いをしているかは、「まったくない」が51.8%と最も多く、次いで「話し合ったことがある」が38.2%、「話し合い、その結果を紙などに記載した」が1.9%となっている。
前回調査と比較すると、「まったくない」が8.3ポイント高くなっている。



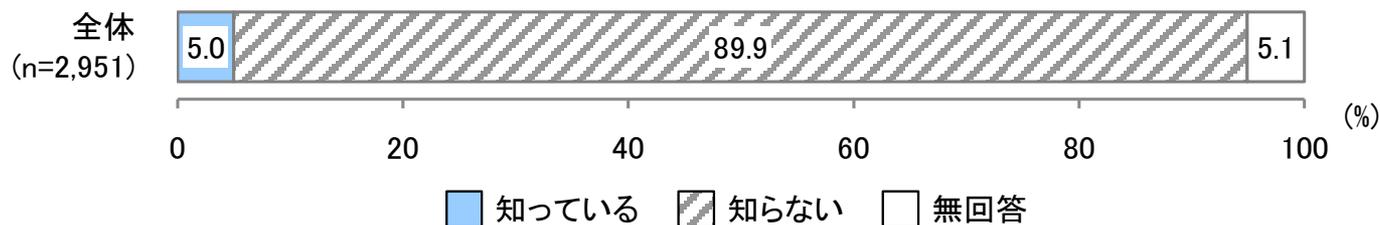
意思決定ができない場合に医療・療養に関し方針を決めてほしいと思う人

意思決定ができない場合に医療・療養に関して方針を決めてほしいと思う人は、「別居の子ども」が33.0%と最も多く、次いで「配偶者」が24.5%、「同居の子ども」が19.8%となっている。



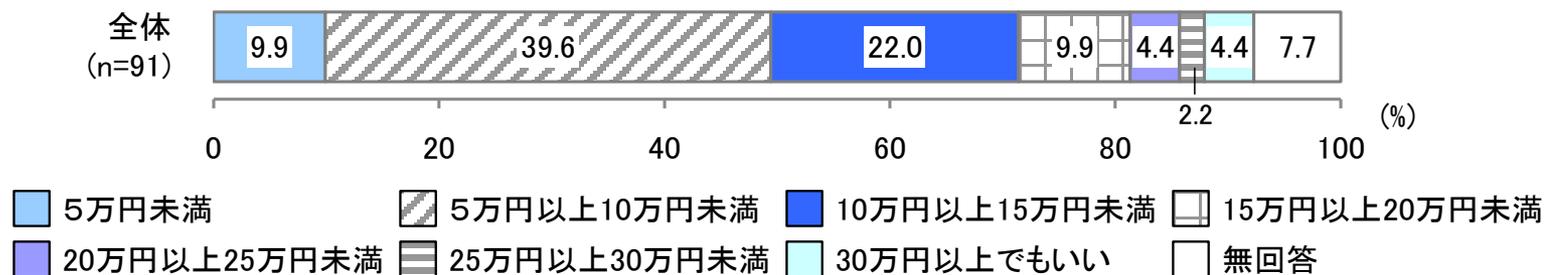
A C P (人生会議) の認知度

A C P について知っているかは、「知っている」が5.0%、「知らない」が89.9%となっている。



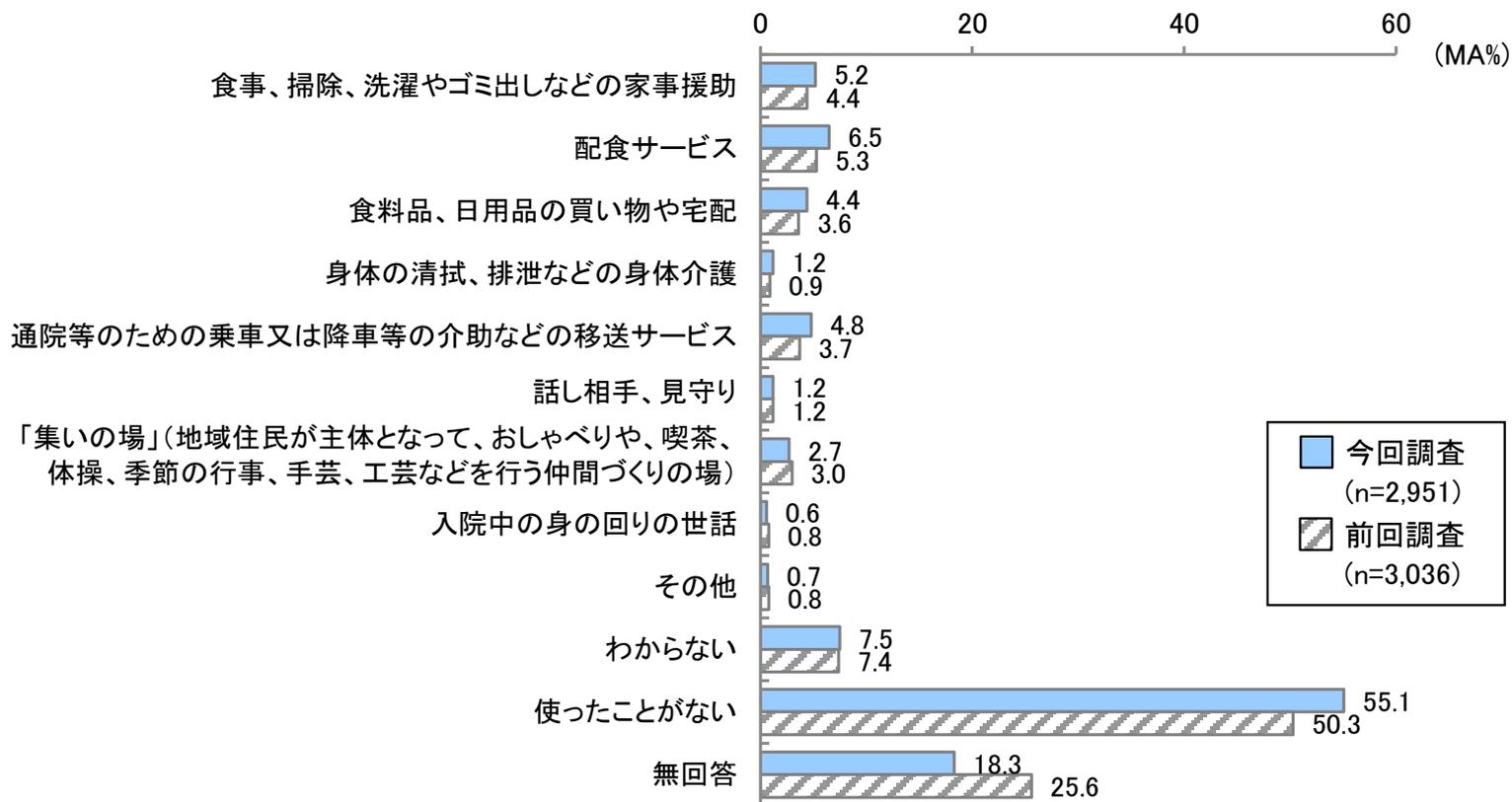
特別養護老人ホームに毎月負担できる支払額

特別養護老人ホームに毎月負担できる支払額は、「5万円以上10万円未満」が39.6%と最も多く、次いで「10万円以上15万円未満」が22.0%、「5万円未満」、「15万円以上20万円未満」がそれぞれ9.9%となっている。



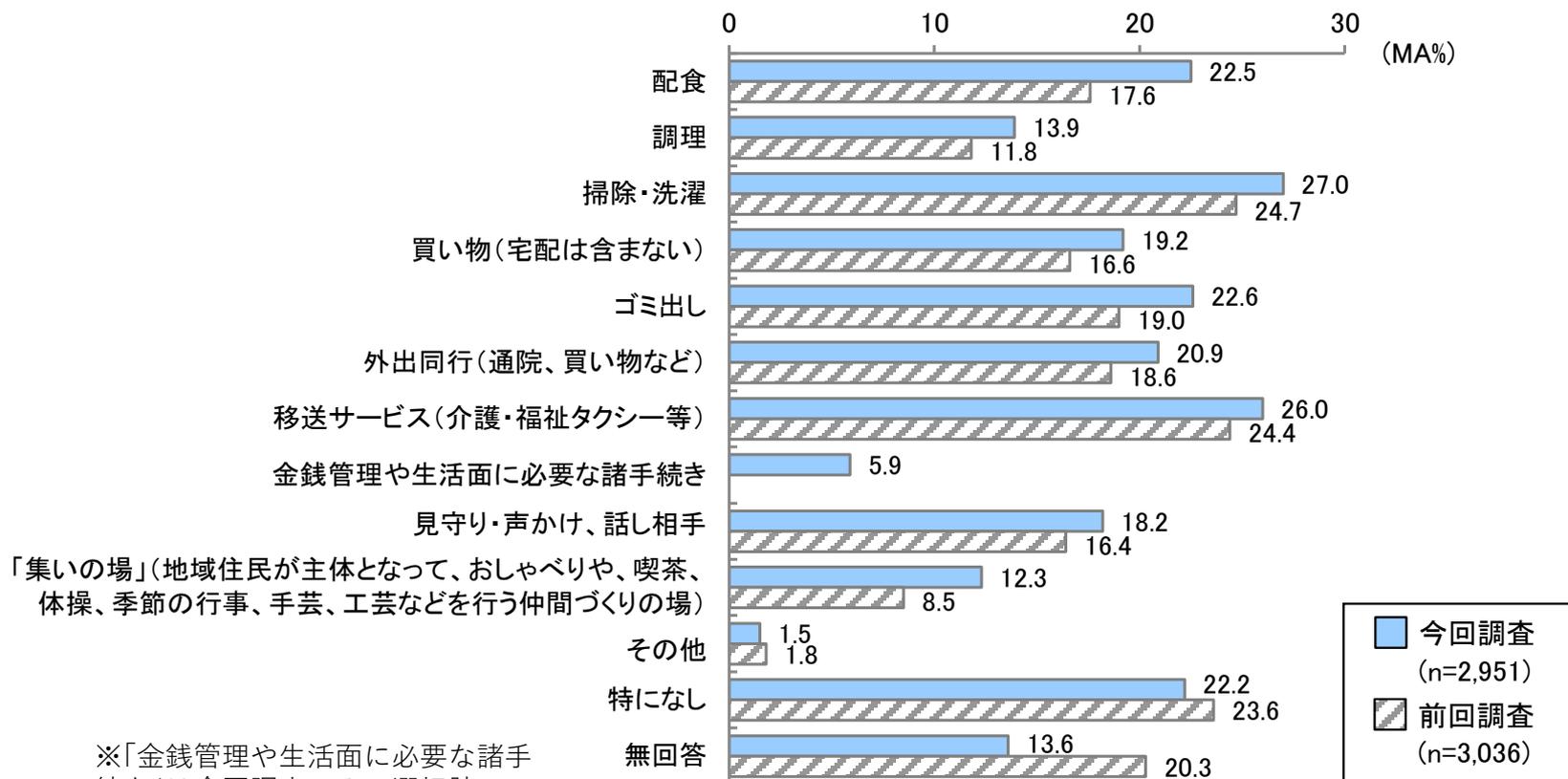
介護保険サービス以外で利用しているサービス

介護保険サービス以外で利用しているサービスは、「配食サービス」が6.5%と最も多く、次いで「食事、掃除、洗濯やゴミ出しなどの家事援助」が5.2%、「通院等のための乗車又は降車等の介助などの移送サービス」が4.8%となっている。「使ったことがない」は55.1%となっている。



今後の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス

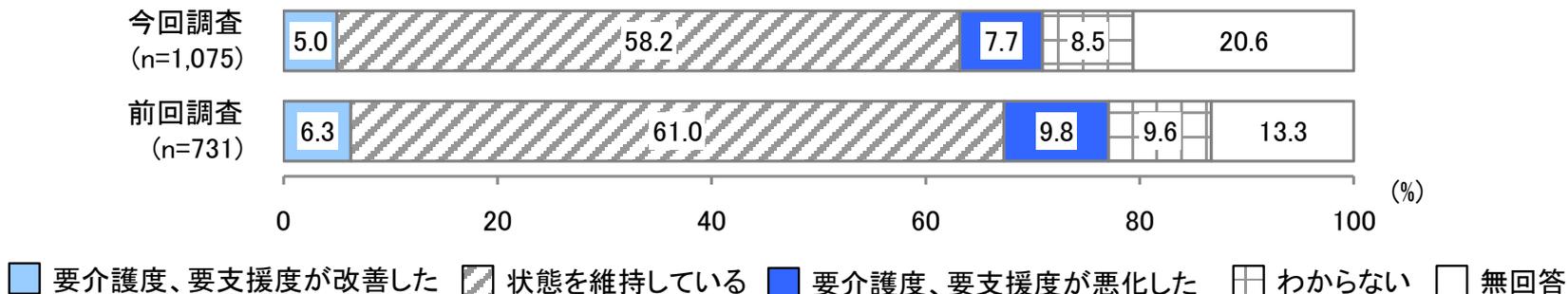
今後の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービスは、「掃除・洗濯」が27.0%と最も多く、次いで「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」が26.0%、「ゴミ出し」が22.6%、「配食」が22.5%、「外出同行(通院、買い物など)」が20.9%となっている。



※「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」は今回調査のみの選択肢。

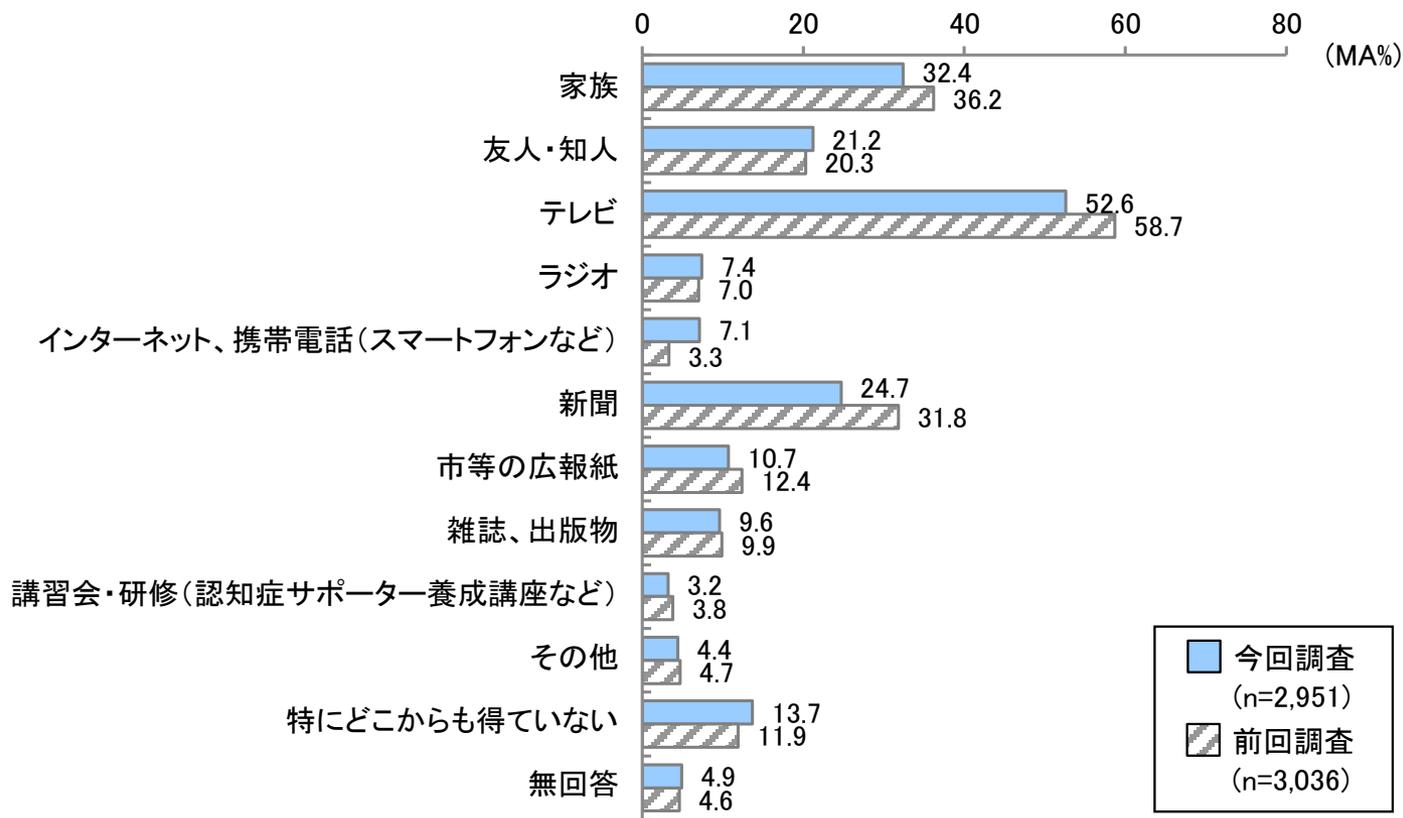
この1年間での状態の変化

1年以上利用している方の、この1年間での状態については、「状態を維持している」が58.2%と最も多く、次いで「要介護度、要支援度が悪化した」が7.7%、「要介護度、要支援度が改善した」が5.0%となっている。



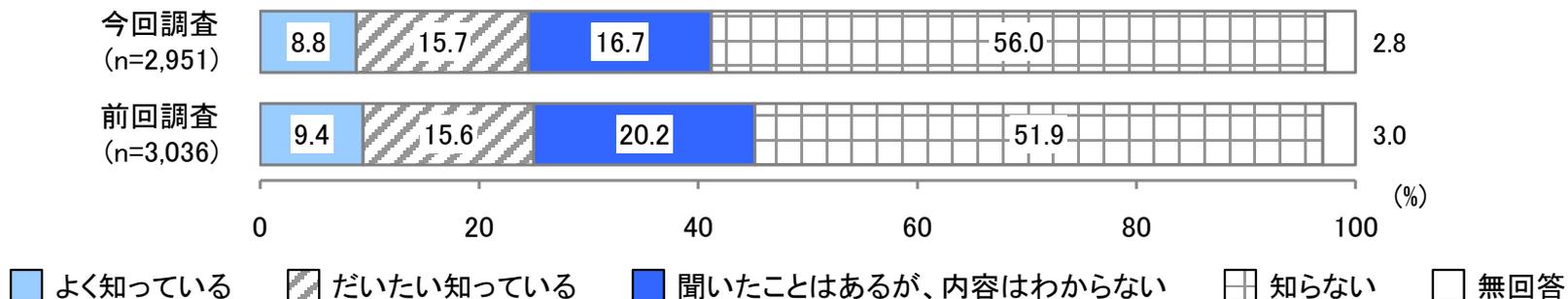
認知症に関する情報の入手元

認知症に関する情報の入手元は、「テレビ」が52.6%と最も多く、次いで「家族」が32.4%、「新聞」が24.7%、「友人・知人」が21.2%、「市等の広報紙」が10.7%となっている。前回調査と比較すると、「新聞」が7.1ポイント、「テレビ」が6.1ポイントそれぞれ低くなっている。



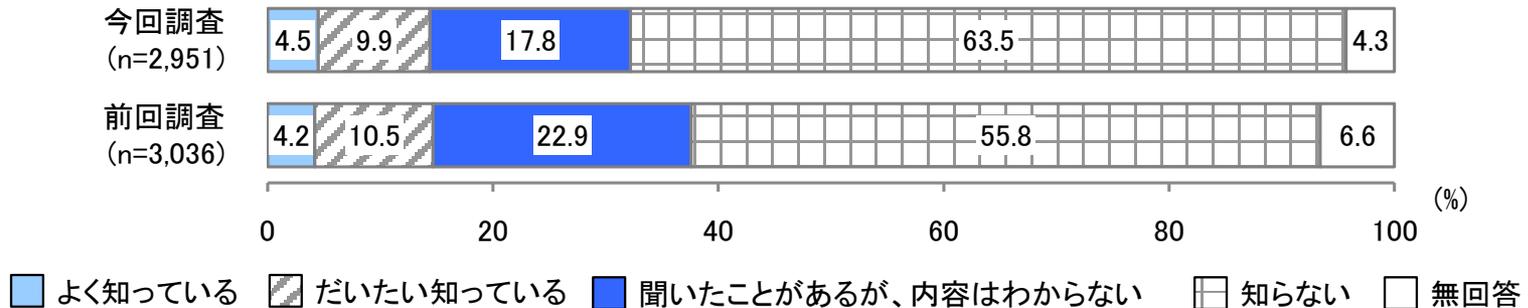
認知症の診断助成制度の認知度

認知症の診断助成制度を知っているかは、「よく知っている」が8.8%、「だいたい知っている」が15.7%で、5割以上の方が「知らない」(56.0%)となっている。



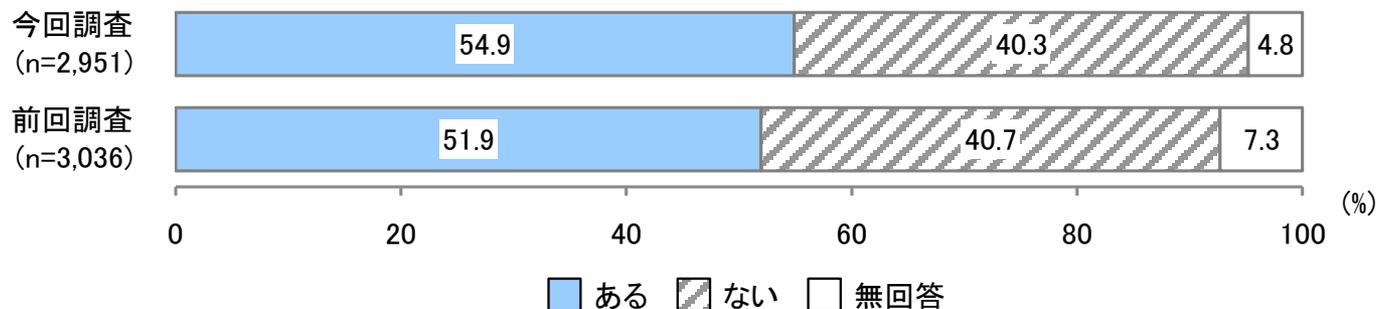
事故救済制度の認知度

事故救済制度を知っているかは、「よく知っている」が4.5%、「だいたい知っている」が9.9%で、6割以上の方が「知らない」(63.5%)となっている。
前回調査と比較すると、「知らない」が7.7ポイント高くなっている。



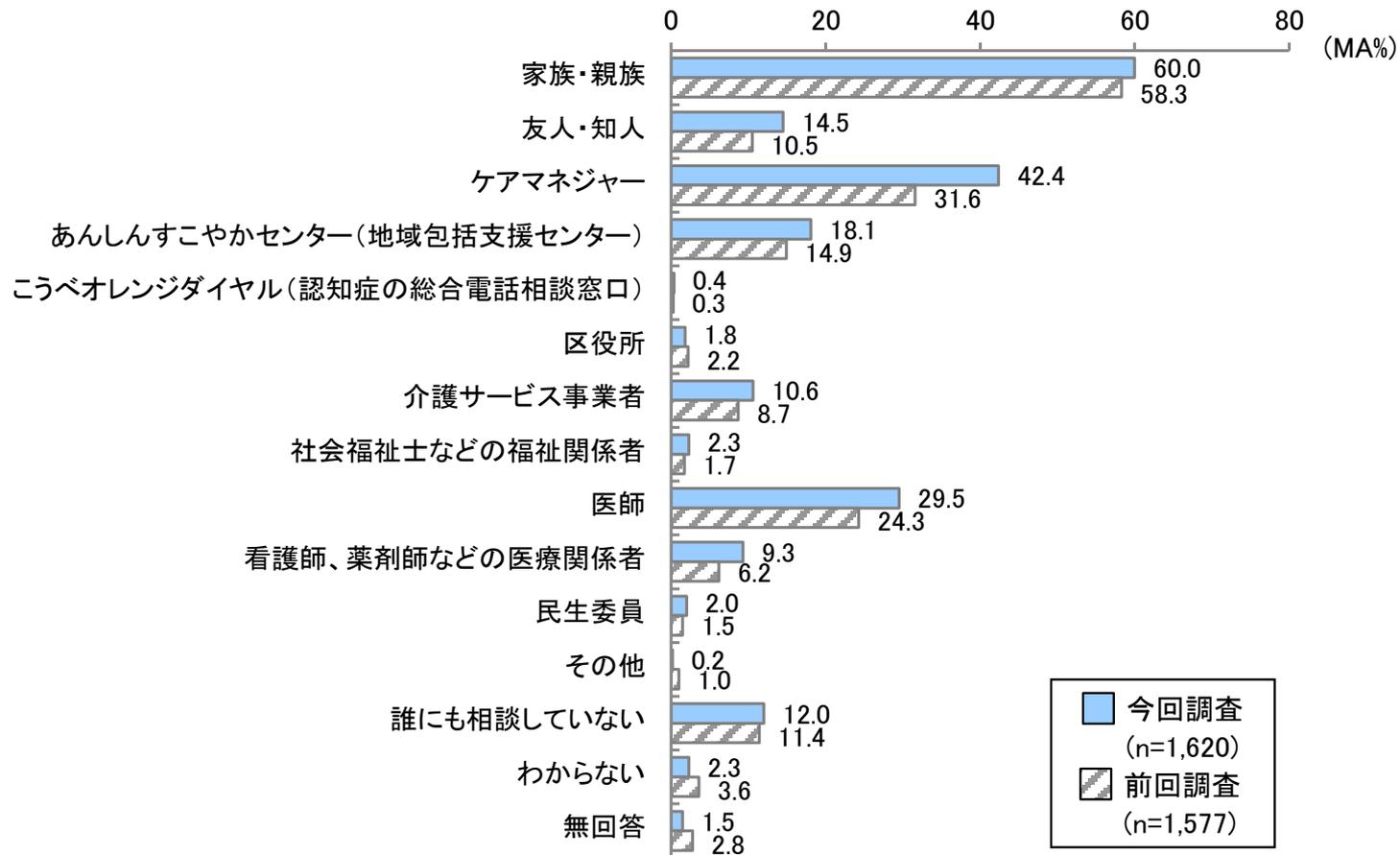
認知症に関する心配ごとの有無

認知症に関して心配ごとがあるかは、「ある」が54.9%、「ない」が40.3%となっている。



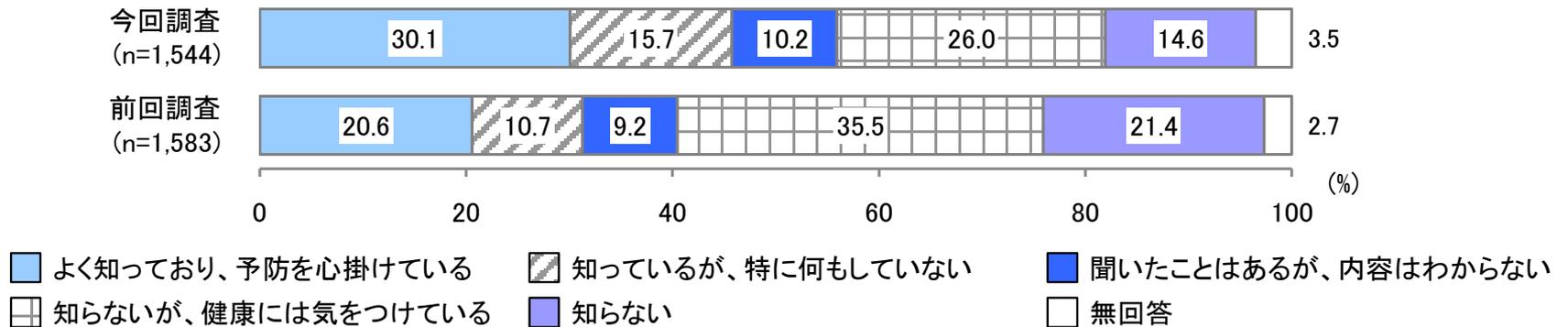
認知症に関する心配ごとの相談先

認知症に関して心配ごとがあると回答した方に心配ごとの相談先についてたずねたところ、「家族・親族」が60.0%と最も多く、次いで「ケアマネジャー」が42.4%、「医師」が29.5%となっている。前回調査と比較すると、「ケアマネジャー」が10.8ポイント高くなっている。



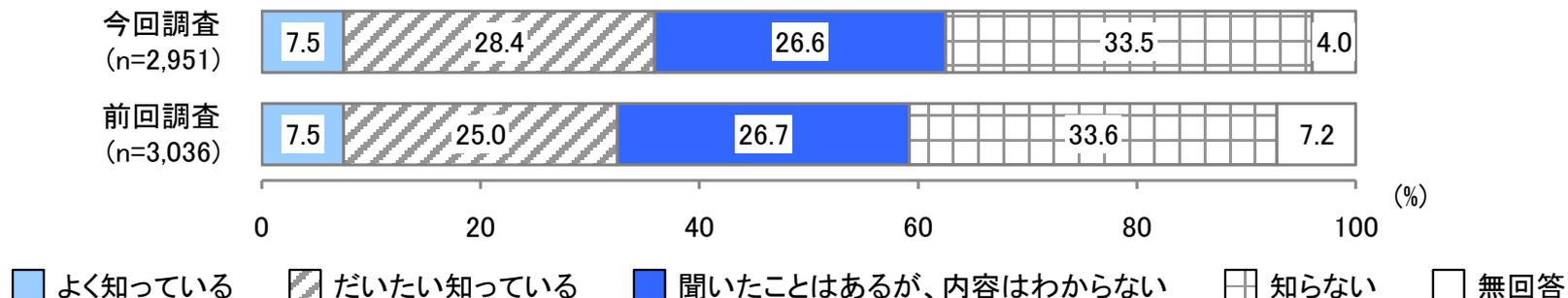
フレイルの認知度

フレイルについて知っているかは、「よく知っており、予防を心掛けている」が30.1%と最も多く、次いで「知らないが、健康には気をつけている」が26.0%となっている。前回調査と比較すると、「よく知っており、予防を心掛けている」は9.5ポイント、「知っているが、特に何もしていない」は5.0ポイントそれぞれ高くなっており、前回調査より認知度が上がっている。



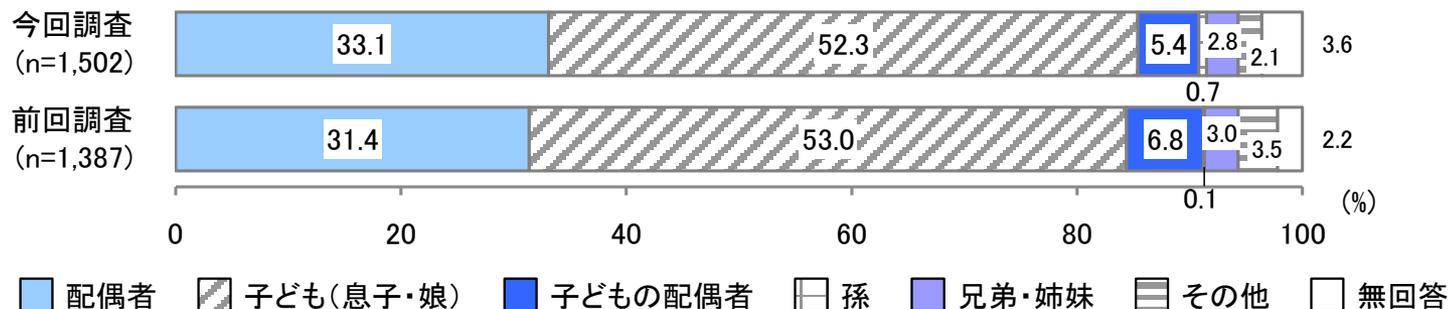
成年後見制度の認知度

成年後見制度を知っているかは、「知らない」が33.5%と最も多く、次いで「だいたい知っている」が28.4%、「聞いたことはあるが、内容はわからない」が26.6%、「よく知っている」が7.5%となっている。



主な介護者の続柄

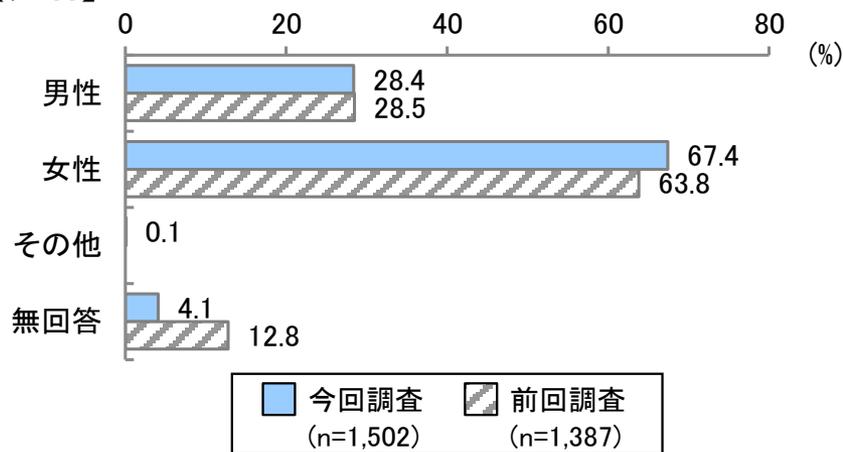
主な介護者は、「子ども(息子・娘)」が52.3%と最も多く、次いで「配偶者」が33.1%、「子どもの配偶者」が5.4%となっている。



主な介護者の性別と年齢

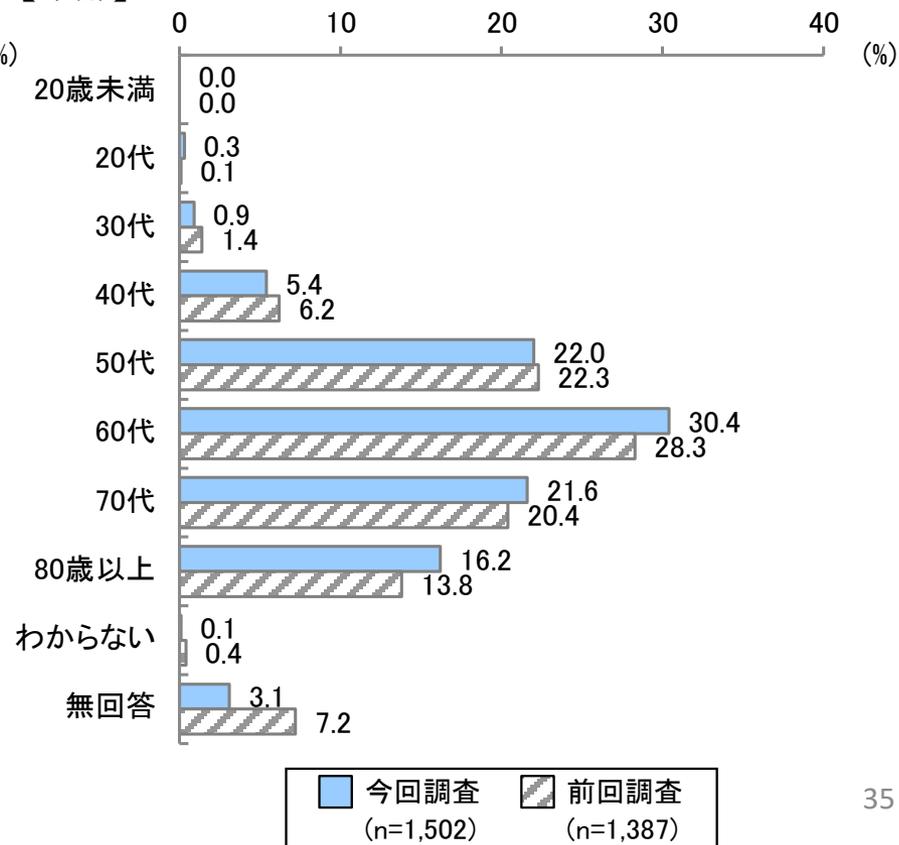
- ・ 介護者の性別は、「男性」が28.4%、「女性」が67.4%となっている。
- ・ 介護者の年齢は、「60代」が30.4%と最も多く、次いで「50代」が22.0%、「70代」が21.6%、「80歳以上」が16.2%となっている。

【性別】



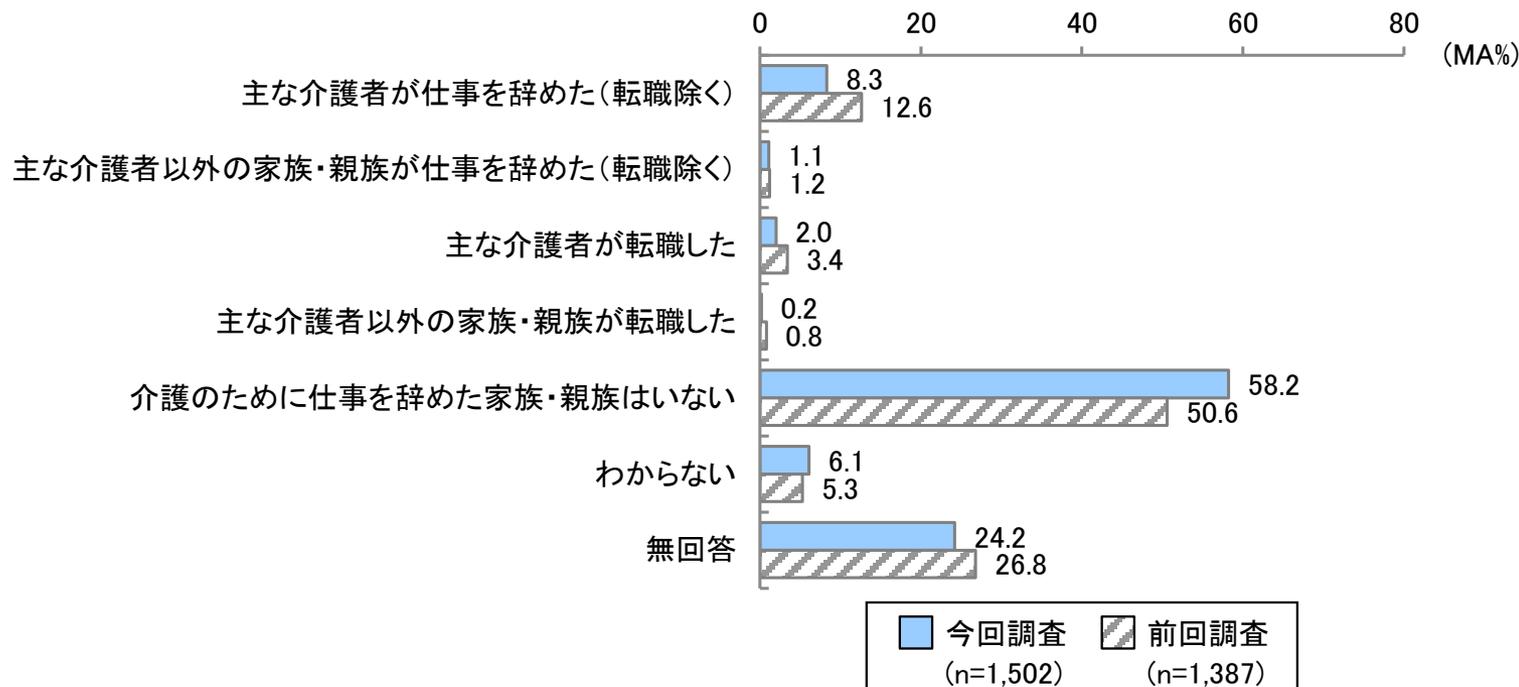
※「その他」は今回調査のみの選択肢。

【年齢】



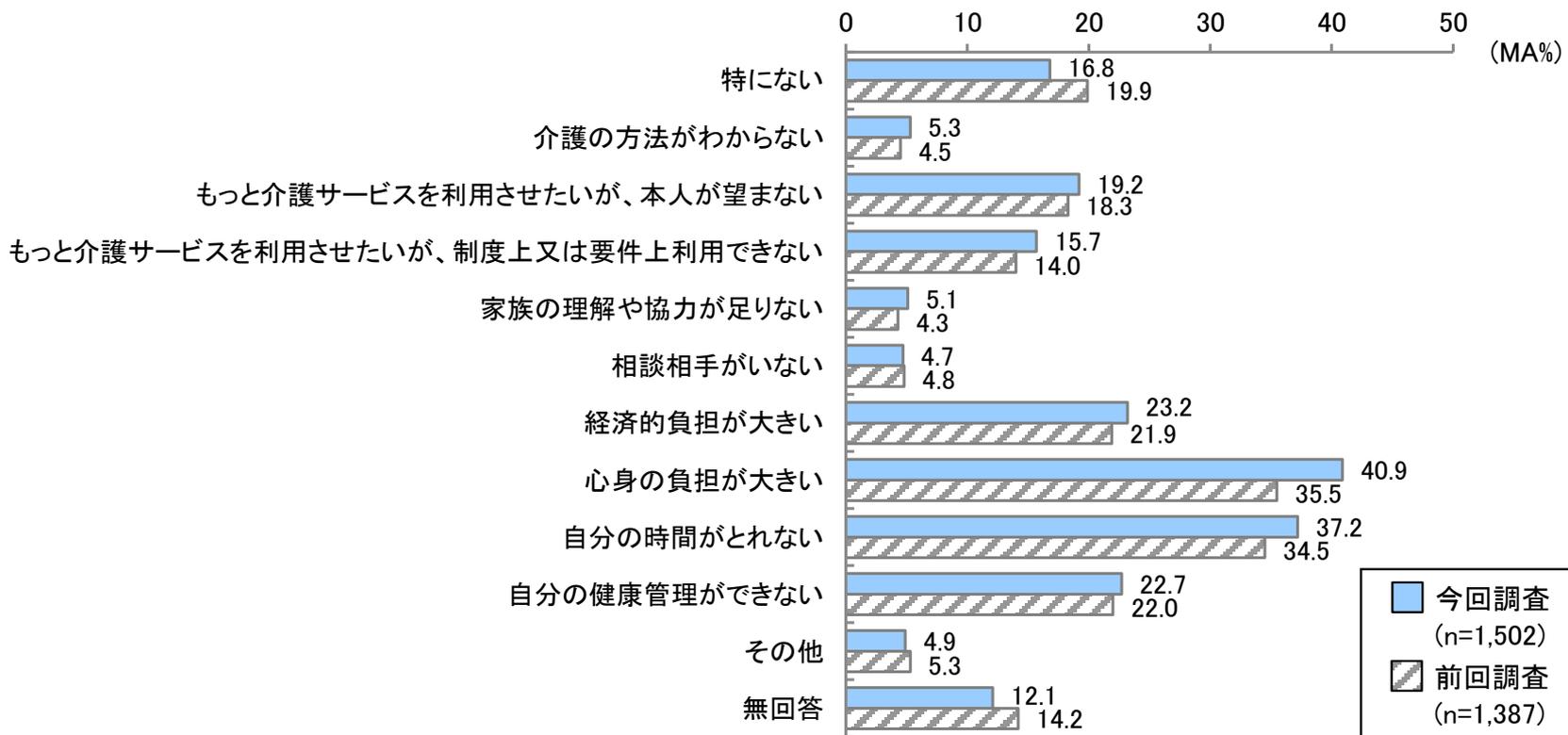
介護を理由に仕事を辞めた家族・親族の有無

介護を理由に仕事を辞めた家族・親族がいるかについては、「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」が58.2%となっている。辞めたり転職した家族や親族がいる割合は11.6%となっている。



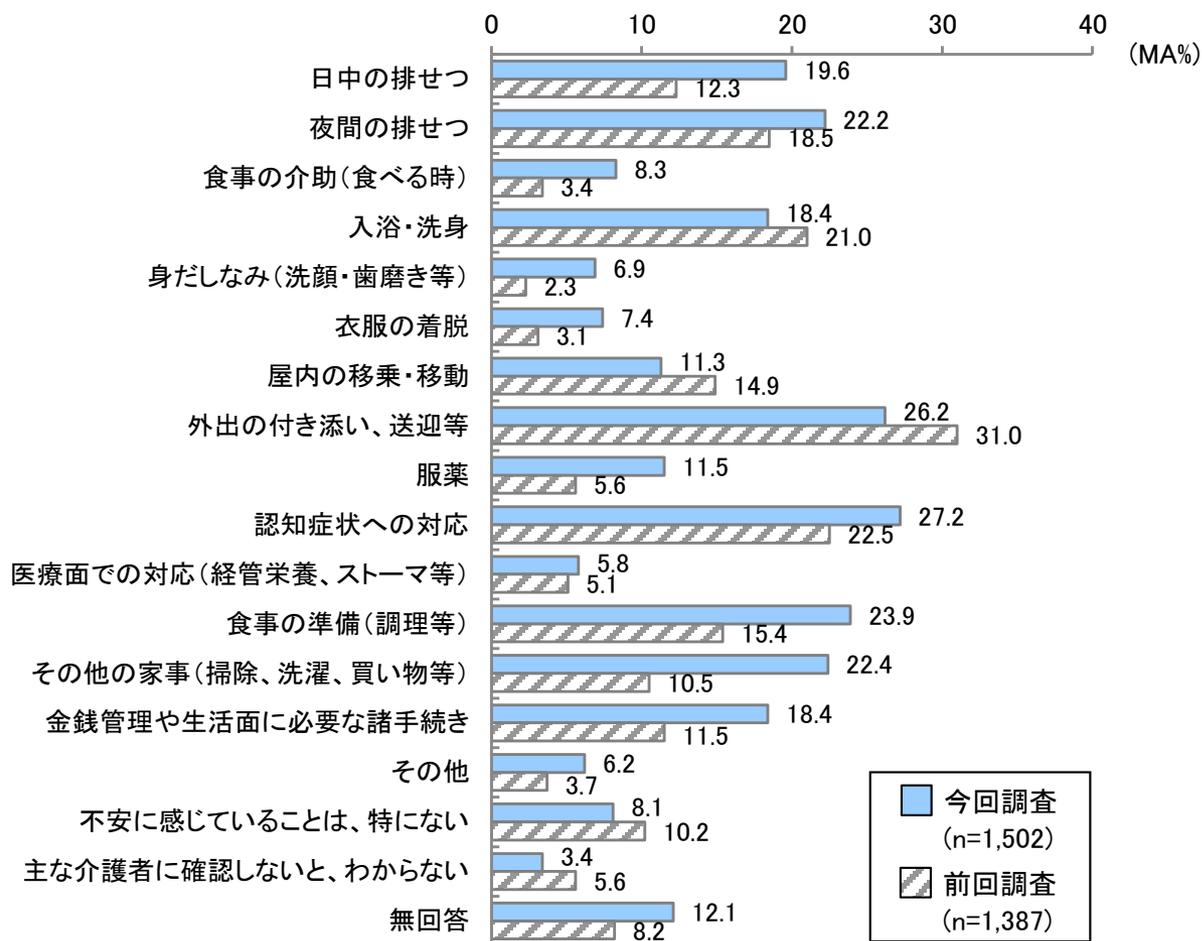
介護者が介護を行う上で困っていること

介護者が介護を行う上で困っていることは、「心身の負担が大きい」が40.9%と最も多く、次いで「自分の時間がとれない」が37.2%、「経済的負担が大きい」が23.2%、「自分の健康管理ができない」が22.7%となっている。



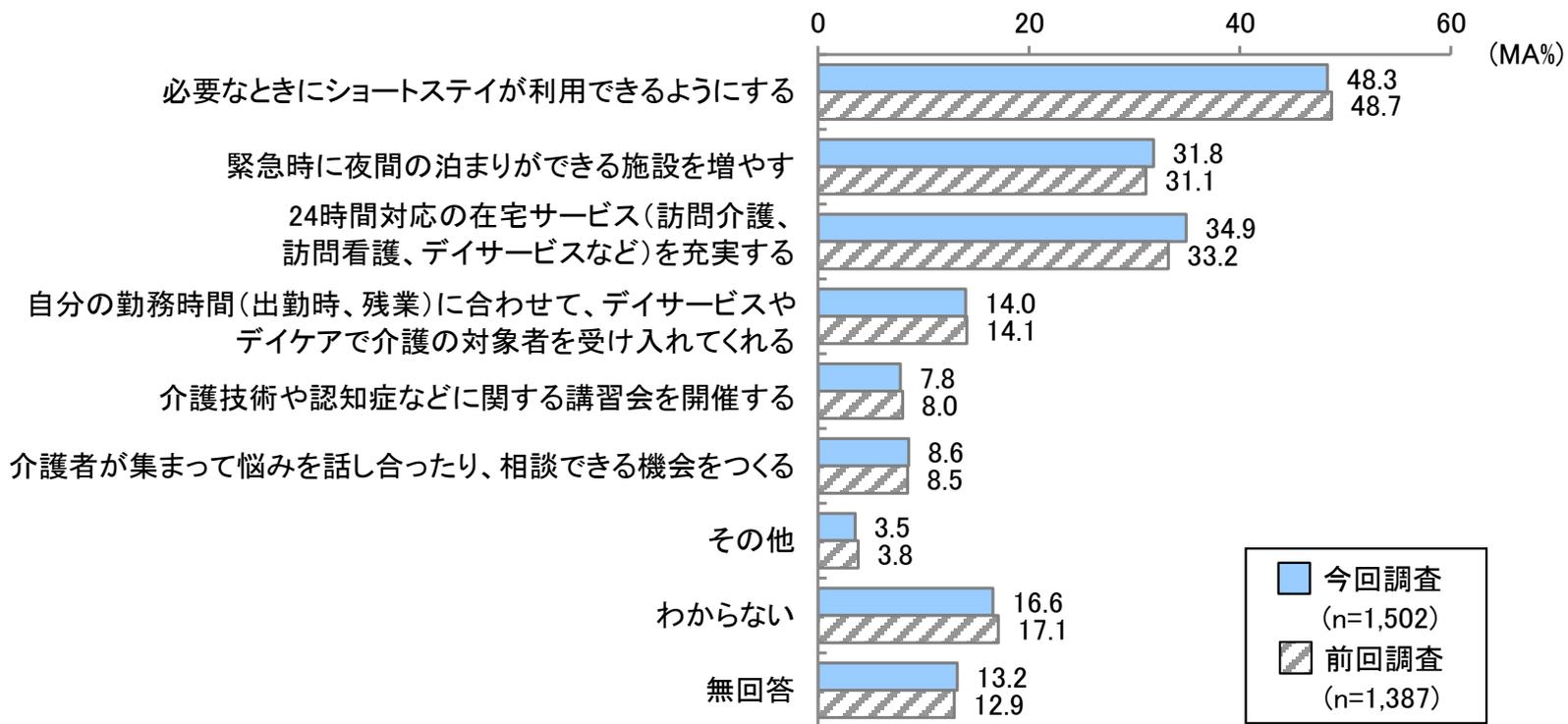
現在の生活を継続する際、介護者が不安に感じる介護内容

現在の生活を継続するにあたり、介護者が不安に感じる介護内容は、「認知症状への対応」が27.2%と最も多く、次いで「外出の付き添い、送迎等」が26.2%、「食事の準備(調理等)」が23.9%となっている。



介護者の介護負担を減らすために必要な施策

介護者の介護負担を減らすために必要な施策は、「必要なときにショートステイが利用できるようにする」が48.3%と最も多く、次いで「24時間対応の在宅サービス(訪問介護、訪問看護、デイサービスなど)を充実する」が34.9%、「緊急時に夜間の泊まりができる施設を増やす」が31.8%となっている。



今後の介護保険料についての考え

今後の介護保険料についての考えは、「介護保険サービスの現状を維持する(高齢化が進む分だけ介護保険料は高くなる)」が36.1%と最も多く、次いで「介護保険サービスの見直しやサービスを利用した人の負担を増やすなどにより、介護保険料を抑制すべき」が30.9%となっている。

